みく方ヶ年掛よりく知し百姓ハ方ヶ関ヶ
不の儀い出歌の事もかゝ甲州伝て隆寄ハ
を比掛く陸奥しかゝ京脇公一人ハ浦部
故軍ハ比ゝ百を一方の降寄を尾舎
陣小猫を して去年九月より実上伊達を和
ゑ事を二年掛し合戦し云ゝ稀利を以今
に到て何の隆を なきゝ実の英雄と感
し思ふれ罪科を赦免加つき思ふを
和多佐信を所廉を京脇公へ以作ゝ方ゝを
今度の一礼けゝの所存別儀なし元を下

を尾もゝ矢ゝるりゝのなゝ比ハ成れい答つき
不ゝ何ゝれ除く遠恨を狭んや主上出公
和ゝ逆公ゝきゝ思ふ比ハ成しゝる
早ゝ上洛方ゝきの吉信ゝ公内西ゝ小
永元公ゝゝを ゝ神刺の不新城を永道
し中西江公儀を捨て中厨ゝと申ゝ
永道ゝ信ゝ又合戦の隆ハ他の事なし
陸て押ゝ中ゝ比ハゝ十分ゝ隆加ゝた一合戦
仕ゝ人き受信是又和士の為ハゝ云又以来
公ゝ不用ゝ方ゝ比ハ赦免ゝて切復ゝて